

介護保険制度とは・・・

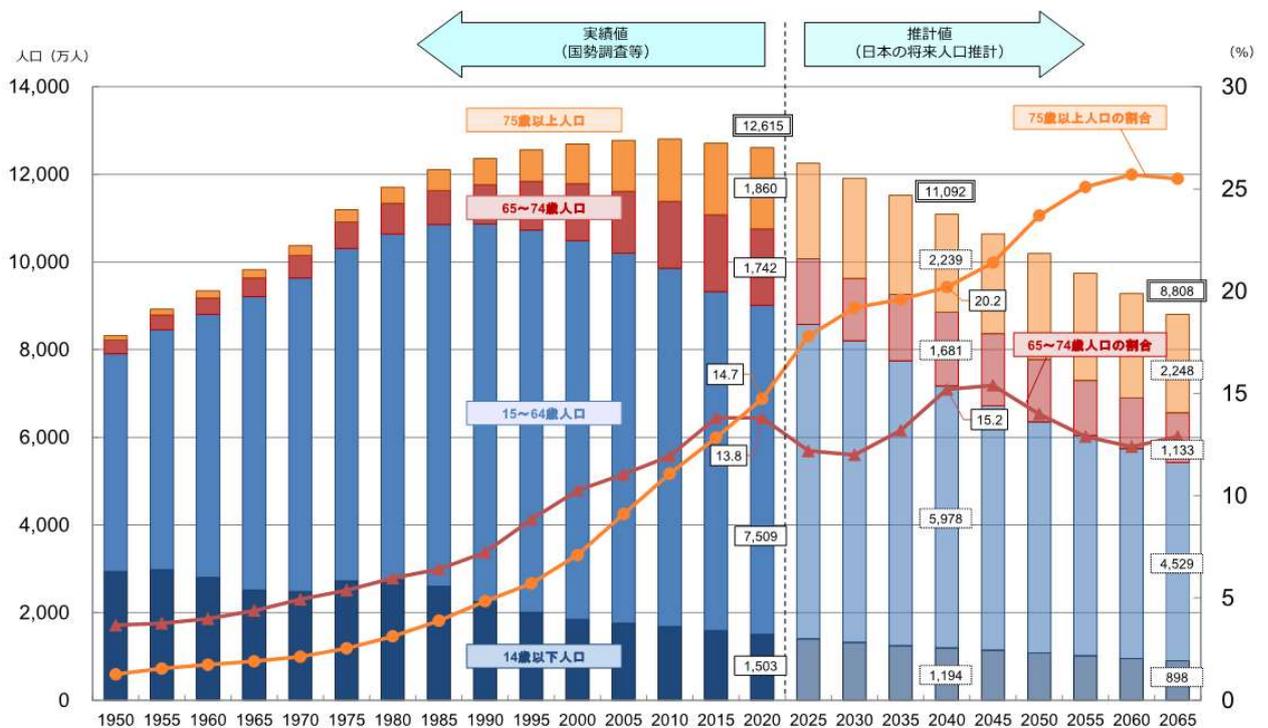
高齢化の進展に伴って「要介護高齢者の増加」や「介護期間の長期化」など、介護ニーズは増大していく一方、核家族化の進行や、介護をする家族の高齢化など、要介護高齢者を支えてきた家族をめぐる状況の変化により、従来の老人福祉・老人医療制度による対応には限界が生じました。

そこで、そうした問題に対応すべく、高齢者の介護を社会全体で支えることを目的とした制度として、「介護保険制度」が平成12（2000）年4月からスタートしました。

本制度では、高齢者の自立を支援することを基本理念とし、利用者の選択により、多様な主体から保健医療サービス、福祉サービスを総合的に受けられることになっています。

また、本制度は社会保険方式が採用されているところ、その対象者は、65歳以上の高齢者の方に加え、40歳以上の方についても、ご自身が加齢に起因する疾病により介護が必要となる可能性が高くなることや、ご自身の親が高齢となり、介護が必要となる可能性も高まる時期であることなどを理由に、本制度の対象者（被保険者）とされています。

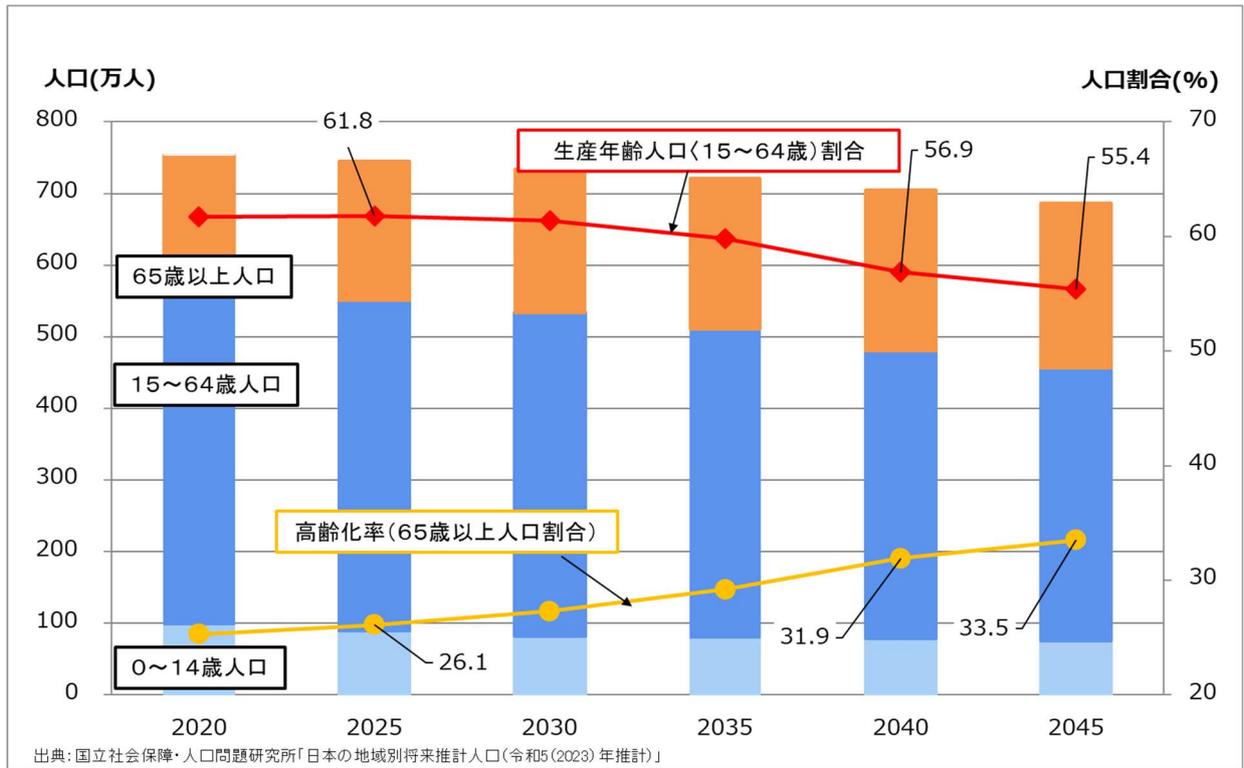
【日本の将来推計人口】



資料：2020年までは総務省「人口推計」（各年10月1日現在）等、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」（出生中位（死亡中位）推計）

（厚生労働省ホームページより抜粋）

【愛知県の将来推計人口】



愛知県の人口推計は上図のとおり、2045年に向けて総人口は緩やかに減少傾向となっている一方、65歳以上の高齢者人口（オレンジ色）は右肩上がりが増加すると見込まれており、それに伴って、高齢化率（総人口に対する65歳以上高齢者の割合）は2045年には33.5%になるとされ、県民の3人に1人が高齢者になるものと予想されています。

もっとも、県内でも名古屋市をはじめとした都市部では、今後高齢者人口が増加していく傾向であるのに対して、もともと高齢者人口が多い山間地域などでは、高齢者人口が今後減少に転じるなど、地域によっても人口動向には大きな差が見られます。こうした地域間の差に対応できるよう、「地域包括ケアシステム」の深化・推進を図るとともに、地域の実情に応じたサービス提供体制の整備を進めてまいります。